

～強靱な道路インフラのために～  
簡易な情報収集機器の活用による、自然災害への対応

道路情報収集機器 ロードビューアー



スマホで自動動画撮影



10～50mピッチで写真保存



PCアプリに取り込む



地図と連動して保存

- ・専用のスマートフォンを車のウィンドウに取り付けて、道路を走らせるだけで、写真情報を収集。  
(10m～30m間隔で写真を切り取り、地図上にプロット。撮影時及び緯度経度)  
このストックにより、平時の状況を把握。

**ロードビューアー活用のメリット**

- ・簡易な機器のため、日常から管轄の道路の撮影ができ、写真保存のため保存容量が小さい。
- ・写真と地図連動のため、撮影場所・撮影時間が特定される。
- ・災害時における道路及び周辺の損傷を、平常時との比較することが容易。  
(通行止め・通行可能など、現場の状態の写真確認と地図上の位置の特定で正しい情報の共有化が可能)
- ・復旧工事の報告においても、平常時・損害時・復旧時の3点で比較報告が容易。

平成30年7月西日本豪雨時の状況（広島県安芸郡坂町水尻）



ROADVIEWER 平成30年7月2日撮影

撮影位置

西日本豪雨



平成30年7月2日



平成30年7月8日



平成30年7月11日迂回して仮復旧



平成30年9月7日撮影  
本復旧